

1 月にスイスをまわり、チ

ューリッヒから日帰り
でルツェルンに立ち寄った。乗り
物の窓を調べるために、巨大な
交通博物館を訪れることが目的
である。現代建築としては、旅
行者を出迎えるサンティアゴ・
カラトラヴァの手がけた構造表
現主義の駅や、隣のジャン・ヌ
ーヴェルが設計したルツェルン
文化会議センター（以下、KKL
と表記）も見所だ。

駅から近づく、ヌーヴェル
らしいメタリックな外壁のKKL
Lがまず目に入る。さらに歩い
て、フィーヴァルトシュテッテ
湖が視界に広がると、異様にで
かい庇が頭上をおおうことに気
づく。23メートルの高さに、平ら
な面が浮かぶ。驚くべきことに、
コーナーでは最大45メートルも
柱で支えることなく、大きな庇
が張り出す。湖の上にも到達し
ている。しかもエッジの処理が
きわめてシャープになっており、
まるで鋭利なカッターによって、

空を切り裂くかのようだ。

KKLが発表されたあと、建
築界では、SF映画『インデペン
デンス・デイ』の影響を受け
たのではないかというコメント
も聞かれた。なるほど、巨大な
屋根は、マンハッタンなど世界
各地の都市に飛来した超大型の
UFOを想起させるだろう。も
ともとヌーヴェルは、こうした
造形を好んでいた。彼のトゥー
ル・コンベンションセンター（1
993年）も、前面の広場に向
かって、激しくせり出した大き
な庇が特徴である。

残念ながら、筆者がKKLを
訪れたのが冬だったせい、あ
まり人出はなかった。しかし、
暖かい季節になれば、ここがユ
ニークな都市の広場になること
は間違いない。水面と大屋根に
挟まれた居心地のいい空間であ
る。キャンティレバー（片持ち梁
の大きな庇で地上をおおうこと
で、新しいタイプの広場が提案
されているのだ。

もちろん、庇は景色を水平のフ
レームにおさめつつ、直射日光を
遮り、上階のテラスやレストラ
ン、劇場のホワイエから湖を眺
めるための装置でもある。ちょ
うど最上階の市立美術館では、
杉本博司の展覧会が巡回してい
たが、ギャラリーのところどこ
から見える外の風景も格別だ。

ところで、本当にこんな薄い
庇で構造的に大丈夫なのかと不
安になるかもしれない。見上げ
てもわからないが、湖の反対側
にまわって、遠くからKKLを
見ると、下からは隠れていた緑
色の銅の屋根がそれなりの厚み
をもっている。ご安心あれ。●

ルツェルンをおおう 大きな屋根

@Luzern



スイスのルツェルン市にあるルツェルン文化会議センター（1998年）。庇が大きく張り出し、湖にもかかる
写真提供：筆者